

4. 新聞等に掲載された活動

○組織発生解剖学（解剖学第三）

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
小路武彦・教授	長崎大学医歯薬学総合研究科の現状と喫緊の課題	長崎県医師会報第797号	2012年6月	

○神経生理学（生理学第二）

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
篠原一之・教授	「ヒトフェロモン」のコミュニケーションの秘密	Health& Beauty Review 8月号 P 45～48	2012年7月	意外と知られていない「ヒトフェロモン」の力を分かりやすく解説

○薬理学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
中川慎介・講師 丹羽正美・教授	BBB再現キットのファーマコセル、海外展開を本格化、欧州企業がライセンス生産へ	日経バイオテク	2012年7月17日	大学発ベンチャーの創薬支援活動 知的財産の社会への還元

○病理学（病理学第一）

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
下川 功・教授	カロリー制限によって健康寿命を目指す	日本フルハップ まいんど	2012年5月号	カロリー制限による長寿化を一般向けに解説した。

○医療情報学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
松本武浩・准教授	あじさいネット	山陰中央日報 メディアファックス（じほう）	2012年4月17日	あじさいネット紹介の記事 「クラウド型で他地域との連携容易に」

○内科学第一

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
川上 純・教授	2010年RA分類基準に手指関節MRI所見を併用した早期関節炎患者の評価	MEDICAMEN NT NEWS	2012年1月25日	138名の早期関節炎患者を1年間追跡、感度・特異度を比較、MRI 所見併用により感度が向上、診断に寄与した
川上 純・教授	～MRIによる骨所見～ ACR/EULAR分類基準5点以下でも診断可能	Medical Tribune	2012年4月19日	

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
川上 純・教授	特殊な地理特性を支える「一枚岩」の関節リウマチ地域連携	Rapport	2012年 6月	
川上 純・教授	近況撮影	Astellas Square	2012年 8月9日	
川上 純・教授	早期関節炎鑑別にはMRIや超音波の活用を	Medical Tribune	2012年 8月16日	
川上 純・教授	長崎大学病院の川上 純 第一内科教授に会いに行く	九州医事情報	2012年 8月16日	
川上 純・教授	ためになるお話	シェーグレンの会 会報	2012年 10月5日	

○内科学第二

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
河野 茂・教授	高齢者の肺炎対策重要呼吸器学会が新ガイドライン 早期発見と予防を	長崎新聞	2012年 1月16日	日本呼吸器学会から高齢者の肺炎の予防について概説した
河野 茂・教授	うず潮 百害もある百薬の長	長崎新聞	2012年 1月17日	飲酒の効用と弊害について概説した
河野 茂・教授	ドクターカー初導入 長崎大学病院 4月運用 救命率向上を図る	長崎新聞	2012年 1月29日	長崎大学病院に導入されたドクターカーを紹介した
河野 茂・教授	うず潮 寒さと腰痛	長崎新聞	2012年 2月22日	寒冷時の腰痛の原因と対策について概説した
河野 茂・教授	うず潮 花粉症とアレルギー	長崎新聞	2012年 4月1日	花粉症の原因と治療について概説した
河野 茂・教授	長大病院シャトル便 利用10万人達成	NCC	2012年 4月24日	長崎大学病院に導入されているシャトルバスの利用が高いことを紹介した
河野 茂・教授	シャトル利用10万人 長崎大学病院がセレモニー	長崎新聞	2012年 4月25日	長崎大学病院に導入されているシャトルバスの利用が高いことを紹介した
河野 茂・教授	うず潮 旅行と病気	長崎新聞	2012年 5月1日	旅行時の罹患しやすい病気について概説した
河野 茂・教授	NCC ニュース Dr. カー	NCC	2012年 5月7日	長崎大学病院に導入されたドクターカーの運用や役割を紹介した
河野 茂・教授	NNN ストレイトニュース Dr. カー	NIB	2012年 5月7日	長崎大学病院に導入されたドクターカーの運用や役割を紹介した
河野 茂・教授	NHK ローカルニュース Dr. カー	NHK	2012年 5月7日	長崎大学病院に導入されたドクターカーの運用や役割を紹介した
河野 茂・教授	報道センターNBC Dr. カー	NBC	2012年 5月7日	長崎大学病院に導入されたドクターカーの運用や役割を紹介した
河野 茂・教授	長大病院が運用始める救命率の向上に期待	長崎新聞	2012年 5月8日	長崎大学病院における救命救急センターの運用について紹介した
河野 茂・教授	3 病院連携し研修新・鳴滝塾きょうから学生募集	長崎新聞	2012年 5月24日	長崎大学病院における特色ある研修制度を紹介した

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
河野 茂・教授	うず潮 梅雨とうつ病	長崎新聞	2012年 6月12日	梅雨時の精神疾患について概説した
河野 茂・教授	うず潮 節電と熱中症	長崎新聞	2012年 7月21日	夏の節電と熱中症の関係について概説した
河野 茂・教授	うず潮 先進医療	長崎新聞	2012年 8月23日	先進医療について、長崎大学病院における取り組みを紹介した
河野 茂・教授	うず潮 頭の痛い駐車場問題	長崎新聞	2012年 9月26日	長崎大学病院における駐車場の不足について概説した
河野 茂・教授	うず潮 グリーンリボン	長崎新聞	2012年 10月20日	移植医療について概説した
河野 茂・教授	地震想定し実動訓練 長崎大学病院 作業の流れ確認	長崎新聞	2012年 11月3日	災害時の長崎大学病院における活動、訓練内容について紹介した
河野 茂・教授	母校の後輩へ 「仲間と縁 大切に」 長崎大学病院長河野氏 佐世保南校で講演	長崎新聞	2012年 11月20日	佐世保南高校において高校生に将来の進路や夢について講演した
河野 茂・教授	うず潮 地域の中の救命救急センター	長崎新聞	2012年 12月2日	長崎大学病院における救命救急センターの運用実績について紹介した
河野 茂・教授	肺炎 死因の第3位 口腔ケア、ワクチンなどで予防	長崎新聞	2012年 12月21日	肺炎の予防法について概説した
松瀬厚人・准教授	名作ホスピタル「汚れた空気にご用心×ロミオの青い空」	NHK	2012年 1月27日	咳嗽の原因や治療について解説した。
松瀬厚人・准教授	名作ホスピタル「怖い咳×ロミオの青い空」	NHK	2012年 2月3日	肺結核による咳嗽について解説した。
松瀬厚人・准教授	アレルギー談話室「鼻と喘息」	KBC（九州朝日放送）ラジオ	2012年 7月6日	鼻炎と喘息の関連について解説した。
西野友哉・講師	腎臓を護ることは命を守る	長崎新聞	2012年 3月31日	慢性腎臓病の病態と予防について概説した。
西野友哉・講師	NBC あっぷる 熱中症対策	NBC	2012年 7月6日	熱中症の病態と注意点、その予防法について概説した。
西野友哉・講師	NBC あっぷる 慢性腎臓病(CKD)について	NBC	2012年 9月20日	慢性腎臓病の病態と予防について概説した。

○消化器内科学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
中尾一彦・教授	郡市医師会だより「長崎大学医師会」続ける力 特定共同指導を受けて 医師の保険診療への意識を向上	長崎県医師会報 第796号	2012年 5月	座談会：保険診療と医療について
中尾一彦・教授	脱インターフェロン(IFN)時代へ	消化器 now	2012年 6月20日	対談：C型肝炎診療の進歩と将来について

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
中尾一彦・教授	「あっ！ぷる」 特集「C型肝炎 最新の 治療法」	NBC 長崎放送	2012年 12月20日	C型肝炎という病気についての正しい知識を持ってもらう目的 病状を克服した元患者様のインタビューを中心に治療方法や医療費助成、日常生活での注意点などの情報で構成。
竹島史直・准教授	酸関連疾患の変遷と Medical Unmet Needs を考える	Medical Tribune	2012年 2月16日	座談会：酸関連疾患の変遷と問題点、新規薬剤に関して
竹島史直・准教授	GERD 治療 患者との コミュニケーションの 重要性	m3.com	2012年 2月より公開	医師向けwebサイトにてGERD治療と患者様とのコミュニケーションの重要性について解説した。
磯本 一・准教授 山口直之・助教	手術数でわかるいい 病院 食道がん内視鏡 治療	週刊朝日 MOOK	2012年 2月29日	食道癌内視鏡治療が全国でトップレベルの評価(26位)
大仁田 賢・講師 山口直之・助教	手術数でわかるいい 病院 胃がん内視鏡 治療	週刊朝日 MOOK	2012年 2月29日	胃がん内視鏡治療が全国でトップレベルの評価(65位)

○循環器内科学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
前村浩二・教授	第76回日本循環器学会 学術集会 愛と情熱 ーアジアから世界へー 九州11大学 循環器内 科の連携.	読売新聞	2012年 2月19日	日本循環器学会学術集会に合わせて、九州における循環器診療の現状について一般向けに解説し、市民公開講座の開催を案内した内容である。
前村浩二・授教	知ってほしい、心不全 の新しい治療 ～心臓 再同期療法(CRT)～	長崎新聞	2012年 10月28日	心不全の症状の特徴、治療法について一般向けに解説した内容である。

○精神神経科学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
小澤寛樹・教授	シネマサイキアトリー [映画の中の精神医学]	長崎新聞	2012年 4月2日	映画作品を通して精神医学を身近なものとしてとらえられるように「家政婦のミタ」を題材として取り上げ、自殺対策①予防[事前教育] ②危機介入、③ポストペンション(自殺者の影響を最小限度にとどめる対策)の3段階を説明した。
小澤寛樹・教授	シネマサイキアトリー [映画の中の精神医学]	長崎新聞	2012年 6月4日	映画作品を通して精神医学を身近なものとしてとらえられるように「インセプション」を題材として取り上げ、夢と心の関係性について説明した。
小澤寛樹・教授	シネマサイキアトリー [映画の中の精神医学]	長崎新聞	2012年 7月2日	映画作品を通して精神医学を身近なものとしてとらえられるように「トゥルマン・ショー」を題材として取り上げ、人が抱える苦悩に焦点をあて妄想の本質を説明した。

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
小澤寛樹・教授	シネマサイキアトリー [映画の中の精神医学]	長崎新聞	2012年 8月6日	映画作品を通して精神医学を身近なものとしてとらえられるように「新世紀エバンゲリオン」を題材として取り上げ、自分の存在理由は何か、と問う思春期の心を理解するすべを提示した。
小澤寛樹・教授	シネマサイキアトリー [映画の中の精神医学]	長崎新聞	2012年 11月5日	映画作品を通して精神医学を身近なものとしてとらえられるように「ハンナとその家族」を題材として取り上げ、思い込みで続く体の不調（心気症）を説明した。
小澤寛樹・教授	シネマサイキアトリー [映画の中の精神医学]	長崎新聞	2012年 12月3日	映画作品を通して精神医学を身近なものとしてとらえられるようにうつ病を丁寧に描かれた「ツレがうつになりました。」を題材として取り上げ、うつ病を説明した。

○小児科学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
森内浩幸・教授	先天性トキソプラズマ & サイトメガロウイルス 感染症患者会「トー チの会」顧問	①北海道新聞 ②読売新聞 ③毎日新聞	①2012年 12月2日 ②2012年 12月7日 ③2012年 12月18日	

○外科学第一

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
矢野 洋・助教	増え続ける乳がん	長崎新聞	2012年 4月16日	県民を対象とした乳がんの解説
宮崎拓郎・助教	悪性気道狭窄病変に対 する気道ステント 約9割で呼吸困難が改善	Medical Tribune	2012年 8月16日	悪性疾患による気道狭窄病変に対 する気道ステント留置術の有用性 について掲載された。

○外科学第二

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
江口 晋・教授	オランダにおける肝移 植・肝胆膵外科の臨床 フェロー	Medical Tribune	2012年 3月1日	オランダに留学した際の生活や経験 について。
江口 晋・教授	手術件数増加する肝移 植	長崎大学病院 広報誌 ポンペだより Vol.55	2012年 3月号	肝移植という高度医療の詳細と今後 の展望について述べた。
江口 晋・教授	日本の医療は私を変える 日経メディカルが選ぶ 次代のリーダー10人	日経メディカル	2012年 4月号	移植・再生医療を長崎の柱にし、 後進育成を通して長崎の医療水準 をより高いものにしたいと展望を 述べた。
江口 晋・教授	肝移植医療の最前線	朝日新聞	2012年 4月29日	ドナーの安全とレシピエントの予後 向上に関して概説した。

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
江口 晋・教授	教授就任の御挨拶	長崎医学同窓会 朋 百 Vol.126	2012年	
江口 晋・教授	「細胞シート」で再生医療拠点化を図る	財界九州	2012年9月	長崎において、再生医療を看板とし、医療による地域活力の創出を目指すプロジェクトが進行していることについて掲載された。
江口 晋・教授	「カザフスタン共和国保健分野功労賞」受賞	長崎新聞	2012年9月3日	カザフスタンでの生体肝移植手術の実績が評価され、「カザフスタン共和国保健分野功労賞」を日本人で初めて受賞。
江口 晋・教授	発表！医師が選んだスーパードクター	PRESIDENT	2012年9月3日	肝臓がん(外科)の専門として、スーパードクターに選ばれた。
江口 晋・教授	カザフスタンの医療発展に貢献	読売新聞	2012年9月24日	カザフスタンにおける肝移植手術に関して。
江口 晋・教授	新しい時代で生まれたものと変わっていくもの	九州医事新報	2012年12月20日	年代の異なる若い外科医も含めたチーム医療に関して述べた。

○皮膚科学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
小池雄太・助教	奈留に「油症外来」カネミ被害者負担軽減へ	長崎新聞	2012年6月21日	奈留病院に「油症外来」を開設して月1回の診療を行い、被害者の負担軽減が期待されることについて掲載された。
竹中 基・講師	夏場に多い皮膚の病気～水虫について～	KTN 週刊健康マガジン	2012年8月3日	水虫の様々な形態について解説、注意を喚起した。
小川文秀・講師	夏場に多い皮膚の病気～皮膚がんについて～	KTN 週刊健康マガジン	2012年8月10日	紫外線によって引き起こされる皮膚がんについて解説し、早期発見を啓蒙した。
富村沙織・助教	夏場に多い皮膚の病気～日焼け、シミについて～	KTN 週刊健康マガジン	2012年8月17日	皮膚にダメージを与える紫外線について解説、日焼け、シミ、しわの予防について説明した。
鍛塚 大・助教	夏場に多い皮膚の病気～ニキビについて～	KTN 週刊健康マガジン	2012年8月24日	にきびの原因について解説し、重症化しないように注意を喚起した。
富田 元・助教	夏場に多い皮膚の病気～アトピー性皮膚炎について～	KTN 週刊健康マガジン	2012年8月31日	アトピー性皮膚炎の病態や原因、悪化を防ぐ方法について解説した。
小川文秀・講師	椿の成分と機能性	椿シンポジウム～ツバキを使った美と地域振興：試験研究の視点から～	2012年11月4日	ツバキ油の皮膚への効果について研究結果を発表し、ツバキの有効活用について意見を述べた。

○産科婦人科学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
増崎英明・教授	子宮頸がん予防ワクチン	長崎新聞	2012年6月4日	子宮頸がん予防ワクチン「県内接種率7割に」
増崎英明・教授	A T L 予防対策	長崎新聞	2012年8月6日	A T L 予防対策国が本腰「長崎方式」普及目指す

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
増崎英明・教授	妊婦支援	西日本新聞	2012年 10月6日	整わぬ妊婦支援「説明担う専門医不足」

○麻酔学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
境 徹也・助教	「長く続くその痛みがマシ ンしていませんか？」	長崎国際テレビ	2012年 11月23日	

○脳神経外科学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
永田 泉・教授	日本人の非心原性脳梗塞における抗血栓治療を考察する—最新データを含めて—	Medical Tribune 別紙広告	2012年 12月27日	
林 健太郎・講師	脳卒中診療の地域格差	Medical Tribune	2012年 8月2日	

○形成外科学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
秋田定伯・講師	創傷医療における新技術の導入—各国の現状と今後の展望	Medical Tribune	2012年 10月11日	第4回世界創傷治療学会連合会議(WUWHS)におけるシンポジウムの座長と発表

○臨床腫瘍学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
芦澤和人・教授	第2回長崎市立図書館市民講座「押さえておきたい！がん予防の豆知識」	KTNテレビ長崎 スーパーニュース	2012年 1月28日	がん医療に関する社会的啓蒙

○社会医学部門 健康リスク管理学研究分野（原研リスク）

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
	NASHIM 被爆者医療研修 韓国人医師3人来崎	長崎新聞	2012年 9月12日	「長崎・ヒバクシャ医療国際協力会」が研修を実施。長崎大大学院などで、被爆者の発がんリスクや放射線防護などに関する知識を学ぶ。
	永井隆平和記念・長崎賞 ウクライナ人医師に	長崎新聞	2012年 11月20日	「長崎・ヒバクシャ医療国際協力会」は「第9回永井隆平和記念・長崎賞」に、ウクライナ医学アカデミー内分泌代謝研究所長のミコラ・トロンコ氏が決まった。

○社会医学部門 国際保健医療福祉学研究分野（原研国際）

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
高村 昇・教授	被災地支援 学生ら議論 長崎大で対話式講義	長崎新聞	2012年 4月28日	学生や市民ら約100人が参加し、被災地支援などについて意見を交わした。
高村 昇・教授	高村、坪倉氏を委託 川内村健康アドバイザー	福島民友	2012年 5月17日	川内村の村健康アドバイザーを委託された。
高村 昇・教授	放射線の影響把握「科学の限界もある」	長崎新聞	2012年 6月22日	被爆者ら約40人を前に放射性物質と内部被ばくの仕組みについてなどを話した。
高村 昇・教授	福島支援の1年語る 長大院教授「長崎の役目」	朝日新聞	2012年 7月4日	居住空間の放射性物質の測定、看護師や保健師による相談で帰村後の生活上の不安を取り除いている。
高村 昇・教授	8.9長崎平和祈念式典 福島・川内村村長が出席	長崎新聞	2012年 7月12日	田上富久市長に提案し、市が招請状を送っていた。
高村 昇・教授	福島の川内村村長 長崎式典に出席	毎日新聞	2012年 7月13日	「原爆に遭い、被爆者がどう暮らしたか、どう復興したかを見てほしい」と仲介した。
高村 昇・教授	川内村の帰村「可能」 長大の高村教授ら米科学誌に発表	長崎新聞	2012年 9月27日	「環境放射能は帰村可能なレベルにまで減少していることが確認された」とする調査結果をまとめた。
高村 昇・教授	川内の環境放射線量 「帰村可能レベルに減少」	福島民報	2012年 9月27日	川内村の環境放射線量などの調査に関する論文を米国の科学雑誌で発表した。
高村 昇・教授	福島の修学旅行生に 講演	読売新聞	2012年 10月13日	長崎原爆資料館で、福島県いわき市の平商業高の2年生約240人を前に講演した。
高村 昇・教授	福島・いわき市の高校生 放射線「不安解消できた」	長崎新聞	2012年 10月13日	長崎原爆やチェルノブイリ原発事故と比較しながら福島の事故について解説。
高村 昇・教授	「川内村は帰村可能」 セシウム年間1ミリシーベルト以下	西日本新聞	2012年 10月20日	「おおむね年間1ミリシーベルト以下で、帰村可能なレベルまで下がっている」とする研究結果をまとめ、米国の科学誌に発表した。
高村 昇・教授	「長崎から福島を学ぶ」	読売新聞	2012年 10月26日	放射線に関する知識を深めるため、機器を使って会場の放射線量を測定したり、遮蔽方法などを実践した。
高村 昇・教授	長崎大に活動資金100 万円を贈呈	長崎新聞	2012年 11月17日	贈呈先を代表して「福島の方々の健康を守るため、若い医療人が活動する資金に充てたい」と謝辞を述べた。
高村 昇・教授	長崎大が甲状腺検査 対象1100人福島の子 どもと比較	長崎新聞	2012年 11月21日	長崎県内の18歳以下の甲状腺検査を始めた。
高村 昇・教授	台湾被爆者掘り起しへ 現地団体に協力要請	長崎新聞	2012年 11月27日	現地の関係機関・団体に援護制度を周知し潜在的な被爆者を掘り起こすための協力を求めたことを田上市長に報告した。
高村 昇・教授	3年生が放射線被ばくと健康影響学ぶ 平商で講話	いわき民報	2012年 12月20日	「放射線被ばくと健康影響」をテーマに講話。

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
高村 昇・教授	「復興、長崎も力に」 福島・川内村 田上市長訪問	長崎新聞	2012年 12月26日	遠藤村長は長崎原爆の日の8月9日、川内村の健康管理アドバイザーを務める高村教授の呼び掛けに応じ、長崎市の平和祈念式典に参列した。

○社会医学部門 放射線災害医療学研究分野（原研医療）

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
山下俊一・教授	低線量被ばく 長崎大 と福島①	長崎新聞	2012年 3月4日	100ミリシーベルトがキーワード 福島県の放射線健康リスク管理ア ドバイザーに就任。講演活動をこ なした。
山下俊一・教授	放影研の諮問委開始 福島健康調査など報告へ	長崎新聞	2012年 3月6日	「放射線影響研究所」の研究内容を 審議する科学諮問委員会が広島研 究所で始まった。
鈴木啓司・准教授	低線量被ばく 長崎大 と福島④	長崎新聞	2012年 3月7日	DNA損傷は線量に比例 放射線に対し、人間が本来備えて いるDNAの損傷能力は、どの程度 まで耐えられるのか。
鈴木啓司・准教授	低線量被ばく 長崎大 と福島⑤	長崎新聞	2012年 3月8日	高線量と違い 随時修復 発がんメカニズムの定説を覆す新た な仮説について
鈴木啓司・准教授	低線量被ばく 長崎大 と福島⑥	長崎新聞	2012年 3月9日	がん発症 定説に疑問 福島第一原発事故を契機とした国家 レベルの放射線発がん研究の必要性 を訴えた。
山下俊一・教授	低線量被ばく 長崎大 と福島⑦	長崎新聞	2012年 3月10日	原発事故から1年を振り返って
山下俊一・教授	長崎大から福島医大 副学長へ	朝日新聞	2012年 3月12日	痛み分かち合う行動を 今後の震災復興で長崎が果たすべき 役割は何か。
山下俊一・教授	「脱原発依存盛り込み を」福島事故	西日本新聞	2012年 5月13日	平和宣言文を作成する起草委員会の 第1回会合が、長崎原爆資料館で開 かれた。
山下俊一・教授	原子爆弾後障害研究会	長崎新聞	2012年 6月2日	「放射線災害と健康管理」と題した シンポジウムでは、原発事故後に 福島県で実施されている県民健康 管理調査の概要を紹介する。
鈴木啓司・准教授	被曝細胞1日で回復 長崎大グループ発表	朝日新聞 毎日新聞	2012年 6月4日	100ミリシーベルトの低線量の放射 線を浴びて傷ついたヒトの細胞の DNAが、被曝から24時間後、元 の状態に回復したとの研究結果を まとめた。
山下俊一・教授	原発と福島 地元医大 の指名②	読売新聞	2012年 6月23日	長崎から援軍 一丸に
山下俊一・教授	長崎大医学部が慰霊祭	長崎新聞	2012年 8月10日	長崎大医学部の慰霊祭で、福島第一 原発事故による風評被害に触れ講話。
山下俊一・教授	福島・子供の甲状腺検 査	毎日新聞	2012年 8月26日	「親の声 謙虚に聞く」 福島医大で甲状腺検査の責任者を務め る山下俊一副学長に、課題を聞いた。

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
山下俊一・教授	特集 東日本大震災1年6カ月	福島民友	2012年 9月5日	県民健康管理調査 県民健康管理調査を実施する福島医大放射線医学県民健康管理センター長を務める山下俊一同大副学長に話を聞いた。
山下俊一・教授	福島県民健康調査 子ども一人甲状腺がん	長崎新聞 朝日新聞 西日本新聞	2012年 9月12日	福島県の「県民健康管理調査」の検討委員会が開かれ、事故発生当時18歳以下を対象とした甲状腺検査について、1人が甲状腺がんと報告された。
	NASHIM 被爆者医療研修 韓国人医師3人来崎	長崎新聞	2012年 9月12日	「長崎・ヒバクシャ医療国際協会」が研修を実施。長崎大大学院などで、被爆者の発がんリスクや放射線防護などに関する知識を学ぶ。
	永井隆平和記念・長崎賞 ウクライナ人医師に	長崎新聞	2012年 11月20日	「長崎・ヒバクシャ医療国際協会」は「第9回永井隆平和記念・長崎賞」に、ウクライナ医学アカデミー内分泌代謝研究所長のミコラ・トロンコ氏が決まった。

○放射線生命科学部門 人類遺伝学研究分野（原研遺伝）

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
吉浦孝一郎・教授 木下 晃・講師 三嶋博之・助教	紫外線に高感受性に 日焼けする遺伝子の 欠損を発見	長崎新聞 西日本新聞 日本経済新聞	4月3日 4月3日 4月3日	原研分子医療部門・荻准教授らとの共同研究により紫外線によるDNA障害の修復に重要な遺伝子を発見した。本研究は、日焼けと遺伝子、DNA障害と遺伝子といった学術内容を広く一般社会に易しく知らしめる好機となった。

○放射線生命科学部門 分子医学研究分野（原研分子）

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
荻 朋男・准教授 中沢由華・助教	紫外線高感受性症候群 責任遺伝子 UVSSA の 同定と機能解析	朝日/毎日/西日本/長崎/日経バイオテック/福島民放/化学工業/日刊工業	2012年 4月2日-3日	紫外線高感受性症候群の責任遺伝子の他、様々なDNA修復遺伝子とその機能を解明する事で、社会的に関心の高い老化やがん化のメカニズム解明につながる。

○原爆・ヒバクシャ医療部門 血液内科学研究分野（原研内科）

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
塚崎邦弘・准教授	ウイルス HTLV-1 シンポジウム『母子感染予防が有効』	長崎新聞	2012年 5月4日(金)、 5月15日(火)	主に母乳を介して感染するウイルス HTLV-1 が引き起こす血液のがんATL、HAMなどの関連疾患や感染者の相談体制について考えるシンポジウムが開かれた。本県では県や長崎大が先駆的に対策に取り組んでいるが、(昨年8月、第一生命保険(株)より第63回保健文化賞を受賞) 市民レベルではまだ知られていない、患者末端まで情報が届いていないという意見が出された。根本的な治療法が確立されていない今、『母乳感染予防』の広い周知が求められる。

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
宮崎泰司・教授他	第34回 日本造血細胞移植学会 特別企画シンポジウム「放射能被曝がもたらす病態と造血幹細胞移植の役割ー過去・現状・今後ー」	Medical Tribune Vol.45, No.27, p26	2012年 7月5日	被ばく、放射能自己の経験があるにもかかわらず、わが国の放射能への取り組みは立ち遅れていると言わざるを得ない。長崎の原爆や東海村事故の先例から放射線被ばくの影響や臍帯血移植などの治療効果紹介が行われた。いずれも過去の被ばく災害の経験を今後に生かすためである。 このシンポジウムの中で、原爆被ばく者では線量増加とともに白血病、固形腫瘍のリスクが上昇することを発表した。
波多智子・講師	Session2ーMDSの予後予測ー MDSの新規予後判定システム	血液腫瘍シンポジウム2012MDS～病態解析と治療の進歩～ (※編集・制作メディカルレビューン発行：大日本住友製薬(株))	2012年 7月30日	2012年3月3日(土)東京で開催された『血液腫瘍シンポジウム2012』において、既存のMDS予後システムを総括するとともに、改訂作業の経緯と方向性、課題を報告した。
波多智子・講師	Session5ーデフェラシロクロスの副作用マネジメントと継続治療に向けて	Consensus Meeting [進化する輸血後鉄過剰症の治療戦略] (※発行：エルムコム/エルゼビアジャパン(株)、提供：ノバルティスファーマ(株))	2012年 7月	2012年3月31日(土)東京で開催された『Consensus Meeting [進化する輸血後鉄過剰症の治療戦略]』において、デフェラシロクロスの安全性定期報告をふまえ、ここでは副作用発現数の多い胃腸障害、皮膚障害、腎機能障害をとりあげ、発現状況およびデフェラシロクロスの投与を継続するためのマネジメントについて概説した。

○原爆・ヒバクシャ医療部門 腫瘍・診断病理学研究分野(原研病理)

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
中島正洋・教授	長崎の被爆者DNAを冷凍保存	Yahoo ニュース(時事通信)	2012年 8月8日	被爆者腫瘍組織バンクに365例の症例を収集し、放射線の人体影響研究への利用体制を整備。
中島正洋・教授	被爆者DNAを冷凍保存	公明新聞	2012年 8月9日	被爆者腫瘍組織バンクに365例の症例を収集し、放射線の人体影響研究への利用体制を整備。
七條和子・助教	内部被ばくを研究	福島民報	2012年 7月20日	被爆者解剖標本で、長崎原爆のプルトニウムに特有のアルファ線を放出していることを報告した。
七條和子・助教	健康被害の実態解明進まず	静岡新聞	2012年 7月27日	被爆者解剖標本で、長崎原爆のプルトニウムに特有のアルファ線を放出していることを報告した。健康被害の実態の解明が進んでいない。
七條和子・助教 松山睦美・助教 中島正洋・教授	夏の祈り	映画(長崎セントラル劇場・東京・広島)	2012年 8月4日	恵みの丘長崎原爆ホームを舞台にしたドキュメンタリーの中で長崎大学で行われている放射線による障害や内部被曝の研究を解説した。
七條和子・助教	原爆ホーム舞台長崎で映画公開	読売新聞	2012年 8月4日	映画「夏の祈り」の中で内部被曝を解説し、「放射線が人体に与える影響の研究状況を伝えることで、科学が持つ可能性と希望を感じ取ってもらいたい。」

○光学医療診療部

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
磯本 一・准教授 山口直之・助教	手術数でわかるいい病院 食道がん内視鏡治療	週刊朝日 MOOK	2012年 2月29日	食道がん内視鏡治療が全国でトップレベルの評価(26位)
山口直之・助教	手術数でわかるいい病院 胃がん内視鏡治療	週刊朝日 MOOK	2012年 2月29日	胃がん内視鏡治療が全国でトップレベルの評価(65位)

○生活習慣病予防診療部

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
川崎英二・准教授	「連携医」育成し地域医療ボトムアップ図る 長崎	メディカルトリビューン	2012年 7月19日	糖尿病連携医の育成は、専門医への過度な集中を防ぎ、かつ地域の糖尿病診療の質向上につながる期待があると解説した。

○国際ヒバクシャ医療センター

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
宇佐俊郎・講師	ヒバクシャ医療	山陰中央新報	2012年 8月10日	入院患者を世界中から受け入れている。また3月11日に発生した福島第1原発事故では被ばく医療体制づくりにあたった。

○薬剤部

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
佐々木 均・教授	これからの病棟業務はいかにあるべきか	Pharma Scope 特別号 長崎県版	2012年 9月	病棟薬剤業務実施加算総説がもたらすインパクトについて対談
北原隆志・准教授	病棟業務の質を上げる フィジカルアセスメント	月刊薬事54 (1): Front page	2012年 1月	より深いレベルで患者を診ようとする薬剤師の取り組みについて説明
北原隆志・准教授	薬剤師によるフィジカルアセスメント	Palette 86号	2012年 4月	フィジカルアセスメント講習会の内容や長崎大学病院の取り組みについて説明
北原隆志・准教授	薬剤師が行うフィジカルアセスメント	Vis-'a-Vis 57: pp2-3	2012年 8月	薬剤師が行うフィジカルアセスメントについて説明
北原隆志・准教授	薬剤師を変えるバイタルサイン	日経DI 9月号	2012年 9月	フィジカルアセスメント講習会の内容や長崎大学病院の取り組みについて説明

○へき地病院再生支援・教育機構

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
調 漸・教授	インタビュー「データベースを構築」	長崎新聞	2012年 2月5日	4月に開設した核兵器廃絶センターの設置準備委員長である調 漸教授へ、センターの具体的な研究教育内容等の状況報告を伺うインタビュー
調 漸・教授	座談会テーマ「長崎大・核兵器廃絶センター1日開設」	長崎新聞	2012年 3月23日	NPO法人「ピースデポ」特別顧問梅林氏、長崎市長田上氏、調 漸長崎大理事の出席者による、核兵器廃絶センターの設置意義や地域社会での役割についての提言を座談会形式にて掲載

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
調 漸・教授	座談会「核ゼロへの地の拠点始動」	長崎新聞	2012年 3月23日	先の3人による、世界の核兵器情勢、核拡散防止条約、原発との関わりについての考察をテーマとした座談会
へき地病院再生 支援・教育機構	地域医療を学ぶ、他	平戸市立病院 広報「竜んおとし子」	2012年 7月15日	へき地研修を経験した研修医の声の紹介、機構主催の講演会の開催報告、へき地夏合宿開催予告、胃がんリスク検診始動のお知らせ
調 漸・教授	拠点始動「打って出る夏」 長大・調 漸副学長、変化感じる	朝日新聞	2012年 8月8日	被爆2世である調 漸副学長が原爆の日を振り返り、今までの「祈りの夏」から今年は長崎大学の核兵器廃絶センター始動を皮切りに「打って出る夏」へと変化した経緯をたどる
調 漸・教授	被爆研究 積み重ねを IPPNW 2 世らシンポ	朝日新聞	2012年 8月26日	核戦争防止国際医師会議 (IPPNW) 世界大会での被爆2世医師によるシンポジウムでの提言 シンポジストとして調 漸教授参加
調 漸・教授	「被爆2世だからこそ診察」 IPPNW 世界大会 広島、ブラジルの医師 討論	読売新聞	2012年 8月26日	IPPNW 世界大会での被爆2世医師によるシンポジウムの開催報告
調 漸・教授	核廃絶「被爆地一体で」 県、長崎市、長崎大連 絡協を設立	長崎新聞	2012年 10月5日	核兵器廃絶センター (RECNA) が収集、分析した国内外の最新の核兵器情報等を県民と共有し、被爆地長崎が一体となって核兵器廃絶に向けた活動を進める事を狙いとして連絡協議会を設立
へき地病院再生 支援・教育機構	特集 地域医療の現状 と平戸市民病院の取組	平戸市立病院 広報「竜んおとし子」	2012年 10月15日	平戸市民病院における、へき地機構の取り組みの紹介、夏に行われた「地域医療とケア」を考え・体験する夏の合宿企画」の後記

○がん診療センター

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
芦澤和人・教授	第2回長崎市長立図書館 市民講座「押さえてお きたい！がん予防の豆 知識」	KTN テレビ長崎 スーパーニュース	2012年 1月28日	がん医療に関する社会的啓蒙

○メディカル・ワークライフバランスセンター

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
伊東昌子・教授	特集 医療現場のワー クライフバランス	NBC 放送	2012年 4月13日	メディカル・ワークライフバランスセンターがスタートした紹介とワークライフバランスの重要性について
伊東昌子・教授	女医の育児サポート	東京交通新聞	2012年 5月21日	メディカル・ワークライフバランスセンターではじめて子育てタクシーを使った子育て支援事業の紹介
伊東昌子・教授	座談会	長崎県医師会 雑誌	2012年 6月1日	女性医師就労支援について 医療現場および行政の立場から
伊東昌子・教授	おイネ賞表彰式	朝日新聞	2012年 10月29日	西予市が行ったおイネ作文コンテストにおいての受賞

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
伊東昌子・教授	医学の道追求 女性にエール	愛媛新聞	2012年 10月29日	西予市が行ったお伊ネ作文コンテストにおいての受賞
伊東昌子・教授	あじさいプロジェクト スタート 女性医師の復職を支援	長崎新聞	2012年 12月3日	女性医師の就労の現状とメディカル・ワークライフバランスセンターの紹介
伊東昌子・教授	大学における男女共同参画の実践事例	日本医師会ドクターゼ	2012年 12月10日	長崎大学病院における医学部女子学生・研修医へむけての男女共同参画の取り組みの紹介